

【収入保険】 つなぎ融資が支えに！



「米価が下落 つなぎの運転資金として」

【秋田県大仙市 SATORUファーム
代表 伊藤 悟さん】

経営規模＝水稲49ヘクタール、大豆2ヘクタール、
ダイコン3ヘクタール、イチゴ12.5アール

昨年、米価が下落し収入が減少しました。申請から1ヶ月ほどでつなぎ融資を受け取り、資材代などの支払いに充当することができました。

水田活用の直接支払交付金などは年末以降に支払われるため、収入が減少した場合はつなぎの運転資金が必要。つなぎ融資は以前から魅力的だと思っていましたが、実際に受けられて助かりました。

元々は、水稲共済と大豆共済に加入していましたが、法人化するタイミングで収入保険に移行しました。法人化で経営規模が拡大し、収入も増えていくなか、収入保険は収入の減少が1割を超えた際に補てんが受けられるので、加入すれば安心して営農ができると考えました。農業法人は従業員の生活に対して責任があるため、加入に迷いはありませんでした。

(農業共済新聞2022年6月22日(秋田版)より抜すい)